

みんなのひろば



▲農作物の豊作を祈願すること由来する「まゆ玉まつり」。富岡地区では、3世代が集まり、米粉を使って自分たちで作ったまゆに見立てたおだんごを木に飾りつけ、地域の伝承行事を楽しみました。

1月7日(出)／富岡公民館
(撮影：市民カメラマン・塩野好文)



▲約800人が参加して盛大に開催された松が丘自治会の「第27回新春餅つき大会」。模擬店や昔遊びの伝承などをはじめ、新成人や今春に小・中学校、高校等に入学する児童・生徒には赤飯が配られ、幅広い世代間の交流をはかりました。

1月8日(出)／南大谷公園 (撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎)

はっぴー ところ 野老っ子



冬を代表するスポーツ「スキー」。白銀の斜面を滑り降りるスピード感が大きな魅力の一つです。今回は、埼玉県代表として、国民体育大会（以下国体）スキー競技・ジャイアントスラロームに出場した齊藤英樹さんをご紹介します。

齊藤さんが本格的にスキーを始めたのは、なんと社会人になってから。「高校のスキー教室で興味をもったことがきっかけでスキー関係の会社に

就職しました。休みの日には、いつもスキーの練習をしていました」と当時を振り返ります。会社の同僚は大会で上位の成績を収めるスキー選手ばかり。「自分も練習すればいつか優勝できると思っていました。そのころは、ボーゲンで滑り降りるのがやっとだったんですけどね」と恥ずかしそうに語る齊藤さんですが、その思いはいつしか目標へと変わっていきます。初めはスキー場が開催する小さな大会などに挑戦していましたが、より高いレベルで競いたいという思いから国体の予選会に出場します。20歳代前半から毎年出場していましたが、なかなか結果が出ず、ようやく国体に出場できたのは10年あまりが経過した30歳代半ばになってからでした。

スポーツ選手としては遅咲きと言える齊藤さん。国体出場には、な

ただ目標に向かって・・・スキーで国体出場

齊藤英樹さん（小手指元町在住）

にかきかけがあったのではと尋ねると、返ってきたのは意外な答えでした。「練習を続けてきただけで、自分でもよくわからないんです。ただ、国体に出場できたことで、自分がやってきたことは間違いではなかったんだと、思うことができました」

そうして目標とする国体に7回もの出場を果たした齊藤さんですが、今年は仕事が忙しく、練習する時間もなかなかとれないそうです。「国体出場を目標としていくのは、年齢的にも限界かもしれません。それでもスキーは続けていくつもりです。目指す目標が変わったとしても、練習を重ねていくことに変わりはありません」とスキーへの思いを語ってくれました。

齊藤さんの仕事帰り、取材が終わったのは午後8時。

「本当はこれから飲みに行きたいんですが、明日は山へスキーの練習に行くので、早く帰って準備をしなくてはいけないんですよ」と話す表情は、スキーを始めたばかりの少年のような笑顔でした。



▲国体出場に向けて練習する齊藤さん

所沢市スキー連盟所属の会員(選手)の齊藤英樹さんが広報とろざわに載りました。

みなさまの応援もよろしくお願いいたします♪